

# 市検診で胃カメラを受けられる方へ

## ＜当院では、経鼻内視鏡検査を行います＞

通常の胃カメラより細いカメラを鼻腔より挿入し、食道・胃・十二指腸を観察します。必要な場合は病理組織検査を同時に行います。口からの検査に比べて、のどの反射が少なく、検査中もお話しながら検査を受けられます。しかし、鼻の状態によっては鼻からの挿入が困難な場合があります。その時には、口からの検査に変更させていただきます。

## ＜偶発症＞

鼻出血：5～10%で鼻血が起こりますが、処置を要するものは1～2%です。稀に検査10分後に鼻血を生じる場合がありますので、この時はお申し出ください。止血困難な場合は耳鼻科に紹介致します。

穿孔：稀ですが、食道の入り口付近(梨状陥凹)や消化管に穴があいてしまうことがあります。その場合は手術が必要になります。

出血：内視鏡による擦過やゲップによって出血を生じることがあります。また、組織の一部を採って調べること(病理組織検査)を行った場合は少し出血をします。通常、自然に止まりますが、止まりにくい場合には止血の処置を行います。

感染：これを防止するために、日本消化器内視鏡学会の「消化器内視鏡機器洗浄消毒法ガイドライン」に準じて内視鏡スコープ・処置具の洗浄は高レベル消毒を行っております。また、組織検査時の器具は Disposable(使い捨て)のものを用いています。

## ＜抗血栓薬を服用されている方へ＞

抗血栓薬を服用されている方は、従来、休薬して検査が行われてきましたが2012年消化器内視鏡診療ガイドラインで、通常の胃内視鏡検査(組織検査を含む)では

- ・抗血栓薬休薬の有無に関わらず、止血困難な出血を生じる確率は変わらない
- ・抗血栓薬中止によって、脳梗塞や心筋梗塞など重篤な血栓症を生じる危険性があるとされ、この事より抗血栓薬を休薬しないことが推奨されました。

当院では、これに基づき、抗血栓薬を休薬しないで胃内視鏡検査を実施いたします。

しかし、組織検査(生検)については、当院で行うことができる止血術に限界があるため、出血が止まらない場合、止血術試行のために病院へ救急搬送しなくてはならない可能性があるため、原則施行しません。